

(Japanese Academy of Learning Disabilities)

## 日本LD学会会報

第25号



事務局：東京学芸大学心理学研究室内 〒184-0015 東京都小金井市貫井北町4-1-1  
TEL.&FAX. 0423-27-2890



## 「LD児親の会」の悩み

福島県立医科大学神経精神科

星野仁彦

福島県ではLD児の親の会として「トライアングルの会」があります。その名称のように、親と教師と専門家の3者が密接に連携して、LD児の治療教育、親の学習会、親子のレクリエーション行政機関への陳情などを活発に行っています。

先日その会長から大学病院の臨床心理士と医師に次のような御依頼がありました。「これから思春期を迎えようとしているLD児の親達の共通の悩みは、算数や国語などの勉強ではない。むしろ社会性や対人スキルの未熟性の方がより重大な問題であることを痛感している。そのため、(社会)生活技能訓練—SST—を医療機関と連携してやっていきたい」というのです。

彼らの具体的な悩みとして「自己中心的で、友人との協調性に欠ける」、「集団の規律やルールを守れない」、「友人への思いやりや共感性に欠ける」、「クラスで孤立しがちで、いじめられやすい」などです。

LD児のこのような社会性と対人スキルの未熟性は何に由来するのでしょうか。周囲の人によく

理解されて適切に対応されているのでしょうか。彼らの社会性の未熟性の原因はおそらく、学習困難と同様に、脳(中枢神経系)の発達の未熟性や機能障害と関連していると考えられます。

彼らの社会性と対人スキルの未熟性が周囲の人からよく理解されているかどうかは大変疑問です。どうしても日本の家庭や学校では「わがままで協調性に欠けること」は、「勉強ができないこと」以上に、子供の努力不足や親の甘やかしや放任のせいにされて、一層厳しく叱咤激励されてしまうようです。また学習の遅れに加えて、彼らの社会性・対人スキルの未熟性はLD児の適応能力を一層低下させて、様々な2次的情緒障害を起こしやすくしているように思われます。

私どもの外来には、中学生や高校生の不登校、非行、適応障害などが激増していますが、彼らの病歴を調べると、およそ3～4割以上が元来LDを有するのに、それに気づかずに家庭や学校で不適切な指導を受けた子供たちです。精神科を受診する前に救ってあげる手立てはないのでしょうか。